

中小企業の DX 化に向けたファーストステップ

—K 社のケースにおける実践と検証—

氏名 清水 雅也

指導教員 高橋 秀直

要旨

DX（デジタルトランスフォーメーション）はデジタル技術の活用による新たな商品・サービスの提供、新たなビジネスモデルの開発を通して、社会制度や組織文化なども変革していくような取組を指す概念であり、近年の停滞する日本経済や日本企業を打破するものとして注目されている。中小企業においても DX が求められるものの、明日から急に行う事はできない。DX は中小企業にとっても今後、取組を行わなければならない課題となっているが、現場ではどのように DX に着手したらいいのか、自社内でどのようにデジタル技術を活かすのかといった実践だけでなく、そのような取り組みが実際にどのような効果を生み出すのかといった点について分かっていない状況にある。この論文では中小企業の DX について、総務部の責任者（ミドルマネージャー）である筆者の実践とその効果の検証を行い、DX 化の取組を進めていくファーストステップを示した。

第 1 章では DX の概要・進め方・総務部門での DX 化の手段であるクラウドサービスの一般的な取組について整理した。K 社が製造企業である事からもバリューチェーン分析を総務部の業務に反映させて既存の総務業務を分解し DX 化を行う手段を論じた。

第 2 章では中小企業・個人事業主の DX 化の取り組みなどについて、既存の調査を整理した上で、筆者のオリジナルアンケート調査によって現状分析し、課題を把握した。また、クラウドサービスの運営企業からクラウドサービスのメリット・効率化についてまとめた。

第 3 章ではコッターの組織変革の 8 段階に基づいた DX 化の進め方を構想し、それに基づく DX 化のプロセスの実施とその効果を検証した。具体的には、K 社において経理会計業務のクラウドサービス化をベースとした実践を行い、業務削減だけでなく、業務改善についての検証（効果の確認）を行う事ができた。その上で実践上の課題も明らかとなった。

最終的に K 社における DX 化の取組から、中小企業における DX 化へのファーストステップの方法を提言した。